

記録

広島大学文書館ホームカミングデー特別企画展示二〇一二年 「昭和の造船教育者・濱本博登」の記録

小宮山 道夫

展示について

広島大学文書館では、大学院工学研究科と呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）との共催のもと、平成二十四年一月三日（火）から一月五日（月）まで、中央図書館一階ロビーを会場にホームカミングデー特別企画展示「昭和の造船教育者・濱本博登」（以下、「濱本展」と略記）を開催した。

濱本博登（はまもと ひろと 一九一〇―一九八二）名誉教授は広島県賀茂郡広村長浜（現呉市広長浜）に生まれ、旧制広島第二中学校、旧制第六高等学校を経て、東京帝国大学工科大学船舶工学科を卒業。昭和八（一九三三）年より呉海軍工廠に勤務の後、三菱長崎造船所技師や海軍艦政本部嘱託、三菱重工業広島造船所勤務を通じて戦時標準輸送船ほか軍艦の設計等を担当した。昭和二〇年の終戦直後より広島大学の前身校のひとつ、旧制広島工業専門学校で教鞭を執り、以後昭和四八年三月の広島大学工学部教授を定年退官するまでの約二八年間、本学教員として造船業をはじめ各界で活躍する七〇〇名にのぼる

卒業生を輩出した。本学工学部の創設期から統合移転直前までを支えた人物である。

平成二二年四月、茂里一紘広島大学名誉教授を通じ、濱本氏のご遺族より旧制広島工業専門学校および広島大学工学部の講義ノート等の寄贈を受けることとなった。以後数次の寄贈を受けるとともに、平成二三年三月には呉市海事歴史科学館にすでに寄贈されていた資料群（濱本隆夫氏寄贈資料）一式についてもご遺族のご要望と呉市のご配慮のもと、一般の調査研究に供するために当館での公開を前提として当館が長期貸出を受けることとなった。

戦艦大和に象徴される戦時期の造船技術を示す海軍工廠や三菱に由来する多数の資料と、戦後の造船教育の実態を跡づける貴重な資料の公開方法について検討するなか、平成二四年一月三日に本学のホームカミングデーが開催されることが予定されており、かつ一月四日は濱本氏が呉海軍工廠時代に携わった戦艦大和起工から七五周年にあたることもあり、この前後の日程で展示ができるよう計画に着手した。あわせて大学院工学研究科と呉市海事歴史科学館とに共催を打診

したところ、快諾を得ることが出来、実施が決定した。

展示のコンセプト

本展示では、濱本氏が造船技術者・教育者として歩まれた道をたどることで、造船技術の発展が、造船技術・生産管理技術だけでなく教育面でも戦後日本の造船業にいかにか寄与したのかをあとづけることをめざした。戦争を契機として発達し、戦艦大和の建造にも象徴される戦前期日本の造船技術等が戦後日本の造船界にいかにか貢献したかという点については、これまで多くの文献等によって明らかにされている。しかし戦後の造船業を支えた造船技術者を送り出す教育面での貢献についての研究は余り多くはない。それゆえ造船技術が、教育を通じていかに、平和国家の発展に活かされたのか、船舶設計および建造の現場における濱本氏の実践的な経験が、どのようにに大学教育のなかで活かされていったのか、その一端を紹介しよう努めた。

このため展示目録についても、可能な限り資料写真を用い、展示終了後も展示内容をビジュアルに振り返ることができるようにした。目録は六〇〇部を発行し、工学研究科に三〇〇部、呉市海事歴史科学館に資料用の一〇部を引き渡し、残りの二九〇部を展示会場にて配布した。工学研究科では旧船舶工学科の歴史について現在の学生はじめ構成員に伝えるためとして、輸送・環境システム専攻の各研究室と工学研究院・研究科代議員会、工学部代議員会の各委員全てに配布する計画を立てて実施して下さった。また開催にあたっては工学研究科と

経費を折半できることとなり、ホームカミングデー特別企画のため広島大学校友会からも経費支援を受けることができた。

来場者

広島大学校友会のWEB上や、広島大学東京オフィスの発行する「メールマガジン」に告知記事が掲載されたり、地元紙『中国新聞』の十一月三日付朝刊に「多くの造船技術者養成故濱本氏たどる企画展」として展示の概要と記念式典のようを報じられたりした。また旧船舶工学科同窓生の口伝などもあるが、館としての広報活動は後手に回ってしまっていたものの、学外の方からも関心を持たれて、わずか六日と半日間の開催期間にも関わらず入場者数は八三六人を数えた。展示ケース八台、展示資料六六点ばかりの展示内容ではあったが、長時間をかけて展示に見入る来場者の姿も多く見られた。

一月三日のホームカミングデー当日に実施した小池聖一館長によるギャラリートークにも二〇名近い人々が集まり、狭い展示通路にひしめきながら熱心に約五〇分間の解説

資料展来場者数

日付	人数
10月30日(火)	83人
10月31日(水)	74人
11月1日(木)	45人
11月2日(金)	75人
11月3日(土)	363人
11月4日(日)	170人
11月5日(月)※	25人
期間合計	836人

※最終日は14時終了

に耳を傾けていた。

おわりに

広島大学文書館では、濱本博登関係文書の平成二五年度に全面公開を予定している。研究者はもとより造船や関連する教育・研究にご興味をお持ちの多くの皆さんに閲覧利用いただけることを願っている。

最後になるが貴重な資料を寄贈いただいたご遺族の濱本隆夫様はじめ濱本家の関係者の皆様、展示開催にご協力いただいた皆様、そして何よりも会場に足を運んでくださった皆さまに厚く御礼申し上げます。

(こみやま みちお・広島大学文書館准教授)